In the battleground, there is no place for hope.
What lies there is just cold despair and a sin called victory,
built on the pain of the defeated.
The world as is, the human nature as always,
it is impossible to eliminate the battles.
In the end, Pilling is necessary evil-and if so,
it is best to end them in the best efficiency
and at the least cost,
least time.
Call it not foul not nasty.
Justice cannot save the world. It is useless.

Kadokawa Comics A

Fate/Zero フェイト／ゼロ 2

漫画 真じろう 原作 虚淵玄（ニトロプラス）/TYPE-MOON

Kadokawa Comics A
KCA345-2
角川書店

9784047157873
1920979005600
ISBN978-4-04-715787-3
C0979 ¥560E
定価：本体560円（税別）
発行：角川書店

全ての願望を叶える「聖杯」を奪い合う
「第四次聖杯戦争」がついに幕を上げた。
様々な思惑を抱く魔術師と英霊に監視される中、
アイリスフィールに従えられた「セイバー」と
二本の槍を操る槍兵「ランサー」が激突する。
二人の実力が拮抗し、早々に勝負が着かないと見るや否や、
ランサーのマスターは「宝具」の開帳を
彼に命じたのだった――
誇り高き英霊の、剣戟鳴り響く運命の第二巻!!

2
Fate/Zero
Comic : SHINJIRO
Original Work : GEN UROBUCHI(Nitroplus)
/TYPE-MOON

Kadokawa Comics A

Fate/Zero 2

フェイト／ゼロ

漫画 真じろう 原作 虚淵玄/TYPE-MOON
(ニトロプラス)

Kadokawa Comics A

Fate/Zero 2

漫画 真じろう
原作 虚淵玄/TYPE-MOON
(ニトロプラス)

KCA345-2
角川書店

その清澄な闘気……

セイバーと
お見受けしたが
如何に？

その通り

そういうお前は
ランサーに相違ないな？

いかにも

――フン

これより死合おう
という相手と
尋常に名乗りを交わす
こともままならぬとは

是非もあるまい

もとより我ら自身の
栄誉を競う戦いではない

お前とてこの時代の
主のためにその槍を
捧げたのであろう？

フム

違いない

第6話

Fate/zero

フェイト/ゼロ

漫画 真じろう

原作 虚淵玄/TYPE-MOON
(ニトロプラス)

Fate/ゼロ 2

フェイト/ゼロ

Contents

第 6 話
001

第 7 話
033

第 8 話
065

第 9 話
095

第 10 話
129

49

……魅了（チャーム）の魔術（まじゅつ）？

既婚（きこん）の女（おんな）に向（む）かって
ずいぶんな非礼（ひれい）ね
槍兵（そうへい）

悪（わる）いが
持（も）って生（う）まれた
呪（のろ）いのようなものでな

これしかりは
如何（いかん）ともしがたい

その結構（けっこう）な面構（つらがま）えで
よもや私（わたし）の剣（けん）が
鈍（にぶ）るものと期待（きたい）しては
いるまいな？

槍使（やりつか）い

俺（おれ）の出生（しゅっせい）か
もしくは女（おんな）に
生（う）まれた自分（じぶん）を
恨（うら）んでくれ

……結構
この顔のせいで
腰の抜けた女を斬るのでは
俺の面目に関わる

最初の一人が
骨のある奴で
嬉しいぞ

ほう
尋常な勝負を
所望であったか

誇り高い英霊と
相見えたのは
私にとっても幸いだ

それでは――

ニッ

いざ

セイバー……
気をつけて

私でも治癒呪文
ぐらいのサポートは
出来るけど

でも
それ以上は…

コク

ランサーは
お任せを

ただ 相手のマスターが
姿を見せないのが
気懸かりです
妙な策を弄する
かもしれない
注意しておいて
ください

アイリスフィール
私の背中は貴女に
お任せします

はい

……
わかったわ

セイバー
この私に勝利を

必ずや！

−154:09:25

……始まってるな

一帯に張り詰めた魔力の気配…

誰かが結界を張っている

アイリたちのいる位置はほぼ正確に解っている

問題はどうやってその場所に接近しそして何処から監視するか

とんな強力な銃を持とうがサーヴァント相手には鉄砲のようなもの

狙い撃つべきはマスターだ!!

あの上からなら
戦場がくまなく
隅々まで
見渡せますが

たしかに
監視にはあそこが
絶好だ

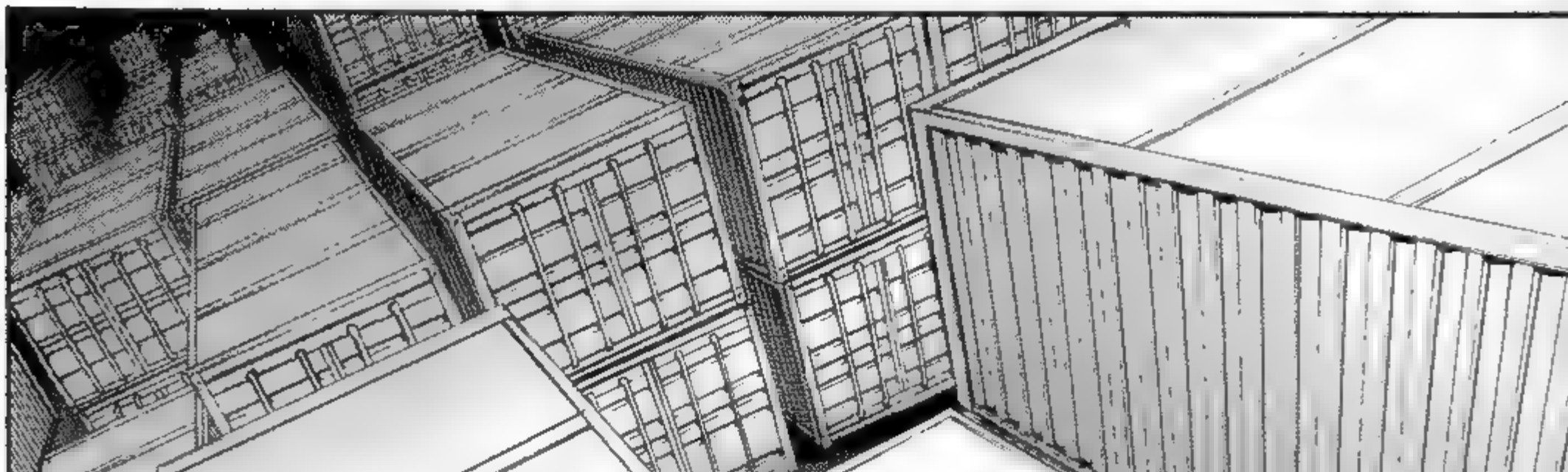
誰が見たって
そう思うだろう

舞弥は東側の
岸壁から回り込め

僕は西側から行く

セイバーたちの
戦闘とあの
デリックレーンの
両方を見張れる
ポイントに着くんだ

解りました



これが……

サーヴァント同士の戦い……！

あの男が槍の座に据えられた英霊であるならば、その手に執る槍が宝具に間違いない

そして槍に巻かれた呪符は間違いなくその槍の正体――己が真名を隠すためのもの

しかし槍は二本

一方は敵を欺くための偽物である可能性がある――！

隙あり！

どうしたセイバー
攻めが甘いぞ

……ッ

愛用の得物とその技の重みに差が出るはずの囮では

なのに

いずれにも〝虚〟がない二本の槍捌きには

……この男

このランサーの英霊は

左右それぞれの短長の槍を

それぞれ左右の腕一本で

何不自由なく操っている

いかな研鑽を積んだ槍術がこれほどの離れ業を可能とするのか

出来る！

何とまた卦体な剣を……

……

宝具としては決して派手な部類じゃないけど、近接戦闘での効果は絶大ね

『風王結界（インビジブル・エア）』

剣の周囲に大量の空気を魔力で集積して束縛し光の屈折率を変えて不可視にする宝具

セイバーの挙動で
太刀筋は読めても
刀身の長さが
分からなければ
間合いは測れない

……

この女
手強い……！

でやあああ

君たち二人は存分に
戦場の華になってくれ

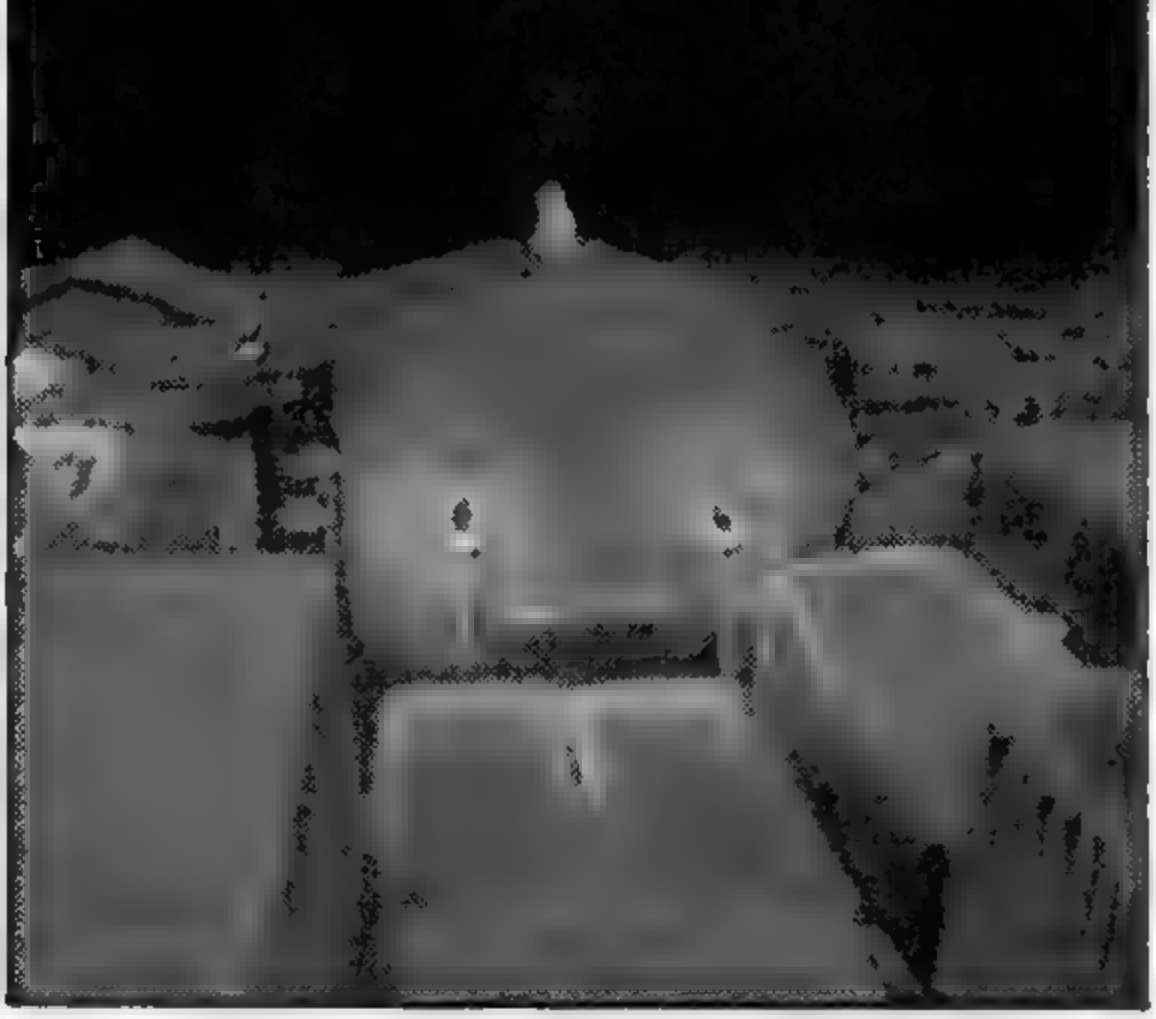
逃げ隠れせず盛大に
誰もがセイバーという
サーヴァントから
目を逸らせなくなる
ほど華やかに

セイバーを注視する
ということはつまり
僕に背中を晒すのと
同じ意味だからね

あの二つの熱源はサーヴァントか

離れたところで立っているのはアイリだな

言った通りに動いてくれてるな



ランサーのマスター
幻影や気配遮断のような
魔術的な迷彩で自分の位置を
隠匿していたのだろうが
それで事足りると
機械仕掛けのカメラアイに
対する配慮を怠ったな

典型的な魔術師だ
舞弥
セイバーたちの北東方向
倉庫の屋根の上に
ランサーのマスターがいる

見えるか？

……いいえ
私の位置からは
死角のようです

……

……まあいい

相手(あいて)はこちらの気付(きづ)いていない存在(そんざい)に一撃(いちげき)で仕留(しと)められる

……

……予期できた事態ではある

舞弥
クレーンの上だ……

聖杯戦争の緒戦においては対決よりも傍観が上策だ

乱入して漁夫の利を攫うも良し
敵の手の内を探るも良し

……はい
こちらもいま視認しました
読み通りでしたね

堅実なマスターならば必ず監視を用意すると考えたからあの絶好のポイントを放棄したんだ

アサシンが生きていることに驚きはしないがアレがサーヴァントだという点が厄介だ……

思惑通りだが……計算外でもあるな

今ランサーのマスターを狙撃すれば銃撃の位置が露見する

アサシンは決して戦闘力に秀でた座ではないが僕二人で太刀打ちできる相手ではない

そもそもセイバーは僕たちがここにいることを知らない

ならばセイバーの助勢は？

ランサーのマスターを屠れたとしてもサーヴァントは独力である程度の時間現界を保てる

しかも距離的な問題もある

期待はできない…

残る手段があるとすれば――

――令呪

しかし仮に令呪でセイバーをここまで瞬間移動させることができたとしても今度は無防備なままのアイリがランサーの前に置き去りになる…

……

舞弥
引き続き
アサシンを
監視してくれ
僕はランサーを
観察する

了解

まあ…一度ぐらいは
自分の手駒の力量を
見極めておくのも
いいだろう

お手並み拝見だ

騎かわいい
騎士王さん

ドドドドドドド

ゴゴゴ…

……

——未遠川河口の倉庫街で動きがありました

いよいよ最初の戦闘が始まった様子です

『最初』という言い分はあるまい

公式には『第二戦』だよ

綺礼

第6話 END

第7話

実のところ
冬木に顕れる聖杯が
〝神の御子の〟聖遺物とは
別物であるという確証は
とうの昔に取れている

——が
だからといって
放置もできない

万能の願望機が
好ましからざる
輩の手に渡れば
どんな災厄を招くか
知れたものではない

それもまた困難だ

では異端として
排除すれば——

この聖杯に対する
魔術師たちの執着は
尋常ではない
魔術協会との衝突は避けたい

遠坂家はな
かつて祖国に信仰を
弾圧されていた時代から
我々と同じ教義を
貫いてきた歴史を持つ

……

時臣くん本人についても
その人柄は保証できるし
何より彼は聖杯の用途を
明確に規定している

そこで冬木の聖杯を
〝望ましい者〟にとな

では私は遠坂時臣氏を
勝利させる目的で
次の聖杯戦争に参加
すればいいのですね？

そういうことだ

『根源』への到達
我ら遠坂の悲願は
その一点をおいて
他にはない

むろん表面上は
君と私は互いに聖杯を
奪い合う敵同士として
振る舞うことになろう

だが我々は
水面下で共闘し
力を合わせて
残る五人のマスターを
駆逐し 殲滅する

転属――ですか？

綺礼くん
君には派遣という形で
聖堂教会から
魔術協会へと転属し
私の徒弟となってもらう

すでに
正式な辞令も
出ているよ
綺礼

……

当面は日本の当家で
魔術の修練に
明け暮れる
ことになるだろう

次の聖杯戦争は三年後

それまでに君は
サーヴァントを従え
マスターとして戦いに
参加できるだけの
魔術師となって
いなければならない

しかし――
構わないのでしょうか？

私が公然とあなたに
師事したのでは
後の闘争でも協力関係を
疑われるのでは？

君は
魔術師というものを
解っていない

利害のぶつかった
師弟どうしが
殺し合いに及ぶことなど
我々の世界では
日常茶飯事だ

ああ 成る程

何か他に質問は
あるかね？

……ひとつだけ

マスターの選別をする
聖杯の意思というのは
一体どういうもの
なのですか？

聖杯は……もちろん
より真摯にそれを必要と
する者から優先的に
マスターを選抜する

では全てのマスターに
聖杯を望む理由があると？

そうとも限らない
現界が近づいても
なお人数が揃わなければ
本来は選ばれないような
人物が令呪を宿すことも…

フム　まあ確かに
奇妙ではある

君と聖杯との
接点といえば
お父上が監督役を
務めていたという
点ぐらいだが……

いや　だからこそ
という考え方もある

ああ　成る程

綺礼くん

君はまだ自分が
選ばれたことが
不可解なんだね？

といいますと？

聖杯は聖堂教会が
遠坂の後ろ盾になる
展開を見越して
いたのかもしれない

教会の代行者が
令呪を得れば
その者は遠坂の
助勢につくものと

――つまり聖杯は
この遠坂に二人分の
令呪を与えるべくして
君というマスターを選んだ

…どうかね？

これで説明には
ならないか？

……

頼り甲斐のある
ご子息ですな
言峰さん

『代行者』としての
力量は折り紙付きです

同僚たちの中でも
アレほど苛烈な姿勢で
修業に臨む者は
おりますまい

見ていることこちらが
空恐ろしくなる程です

ほう……
信仰の護り手として
模範的な態度
ではありませんか

しかし
思いのほか簡単に
承諾してくれましたな
正直なところ
拍子抜けしたほどです

彼からしてみれば
何の関係もない闘争に
巻き込まれたも同然の
ことだったでしょうに

いや……

むしろ
アレにとっては
それが救いだった
のかもしれません

内々の話ですが
つい先日 アレは妻を
亡くしましてな

まだ二年しか
連れ添っていなかった
新妻です

それは また――

態度にこそ
出しませんが
それでも相当
応えているはずです

……イタリアには
思い出が多すぎる

久しい祖国の地で
目先を変えて新たな
任務に取り組むことが
今の綺礼にとっては
傷を癒す近道なのかも
しれません

時臣くん
どうか息子を
役立ててください

アレは信心を
確かめるために
試練を求めている
ような男です

苦難の度が増すほどに
アレは真価を発揮する
ことでしょう

痛み入ります

聖堂教会と
二代の言峰への恩義は
我が遠坂の家訓に
刻まれることでしょう

いやいや
私はただ先々代の
遠坂氏との誓いを
果たしたまでのこと

――あとはただ
あなたが「根源」へ
辿り着くまでの道程に
神の加護を祈るばかりです

はい

祖父の無念
遠坂の悲願
我が人生はそれらを
負うためだけにありました

今度こそ聖杯は
成るでしょう

どうか見届けて
いただきたい

戦っているのは
――セイバー それに
ランサーのようです

とりわけセイバーは
能力値に恵まれています

大方の
パラメーターが
Aランク相当と
見受けます

……成る程な
流石は最強の
クラスといった
ところか

マスターは
視認できるか？

通信にこんな妙な装置を
使う必要もないが…
無線のように傍受される
心配はない……
より慎重を期すると思えば
悪くはないか

堂々と姿を晒して
いるのは一人だけ……

セイバーの背後に
控えています
銀髪の女です

ふむ
ならばランサーの
マスターには
身を隠すだけの
知恵がある と

素人ではないな
この聖杯戦争の
鉄則を弁えている

……待て

セイバーの
マスターだが
銀髪の女だと？

はい
白人の若い女です

銀髪に赤い瞳
どうにも
人間離れした
風情に見えますが

……アインツベルンの
ホムンクルスか？

またしても人形の
マスターを鋳造
したのか……

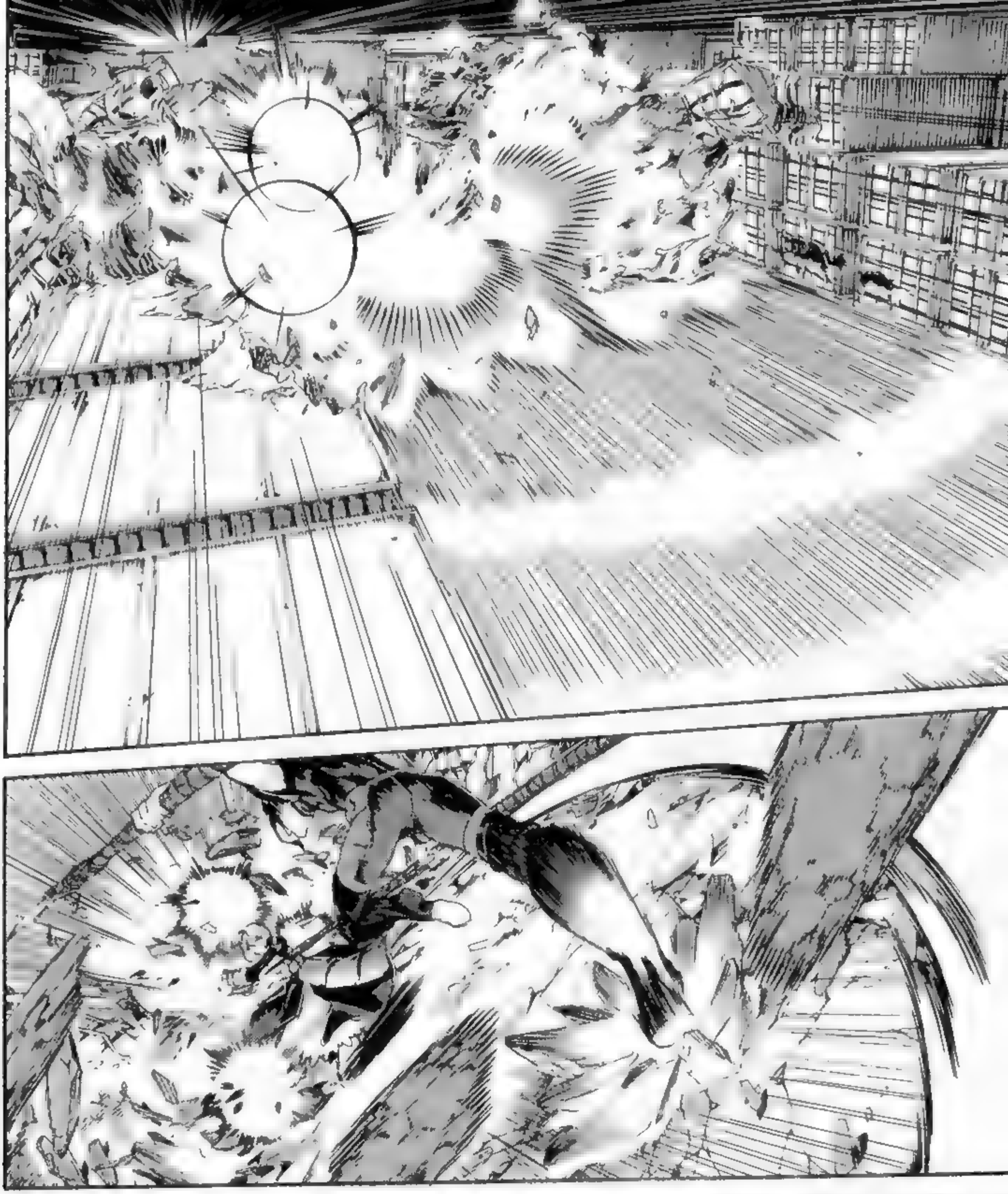
あり得ぬ話
ではないが……

ともかくその女は
聖杯戦争の趨勢を握る
重要な鍵だ
綺礼 決して目を離すな

……

ユーブスタクハイトが
用意したマスターは
衛宮切嗣だとばかり
思っていたが
まさか見込みが
外れるとはな

……了解しました
では常時
一人を付けておく
ことにします



名乗りもない
ままの戦いに
名誉も糞も
あるまいが――

ともかく賞賛を受け取れ

ここに至って
汗一つかかんとは
女だてらに見上げた奴だ

無用な謙遜だぞ
ランサー

貴殿の名を
知らぬとはいえ
その槍捌きをもって
その賛辞……
私には誉れだ

ありがたく頂戴しよう

戯れ合いは
そこまでだ
ランサー

!!

ランサーの……
マスター!?

これ以上
勝負を長引かせるな

そこのセイバーは難敵だ
速やかに始末しろ

——宝具の開帳を許す

了解した我が主よ

！

では…あの長槍の方がランサーの!?

そういう訳だ

ここから先は
殺(と)りに行(い)かせてもらう

なっ!?

ヒュウ…

ドサッ

?

晒したな

秘蔵の剣を

刃渡りも確かに
見て取った！

これでもう
見えぬ間合いに
惑わされる
ことはない！

くっ…！

疑いの余地はない

しかし――

ここだ！

ランサーの赤い槍は『風王結界（インビジブルエア）』を削（けず）っている…!?

ぐっ

セイバー！

やはり易々と勝ちを獲らせてはくれんか……

——ありがとうアイリスフィール

大丈夫治癒は効いています

ランサーの槍は鎧が防ぐはずだった

しかし槍の切っ先は血に濡れ私の鎧には傷ひとつない

槍が触れたその刹那だけ鎧が消え失せて刃を素通りさせた？

インビジブル・エア『風王結界』の亀裂

そしてこの甲冑は私の魔力で編まれたもの

……そうか

見えてきたぞランサー

その槍は刃が触れた
対象の魔力の流れを
その刹那だけ遮断し
無力化するのであろう

その甲冑の守りを
頼みにしていたのなら
諦めるのだなセイバー

俺の槍の前では
丸裸も同然だ

！

フン

防ぎ得ぬ槍ならば
防ぐより先に
斬るまでのこと

覚悟してもらおう
ランサー

…思い切ったものだな

乾坤一擲ときたか

なるほど…セイバーは魔力を任意のベクトルに瞬発的に噴射することで運動能力を格段に高める『魔力放出』のスキルを持っている

鎧に使っていた魔力を『魔力放出』に回せばそのパワーとスピードはさらに上がる

鎧を奪われたことの不利を鎧を捨てることの利点で覆すというわけね

その勇敢さ 潔い決断 決して嫌いではないがな……

この場に限って言わせてもらえば——

それは失策だったぞセイバー

さてどうだか

諫言は次の打ち込みを受けてからにしてもらおうか

ゴッ

『魔力放出』で
ブースト全開

さらに！

『風玉結界（インビジブル・エア）』の高圧（こうあつ）の空気（くうき）を解放（かいほう）して再加速（さいかそく）

音速（おんそく）の数倍（すうばい）に達（たっ）する突進（とっしん）を前（まえ）には迎撃（げいげき）も回避（かいひ）も叶（かな）うまい！！

誘いの隙
それは失策だったぞ

その不覚(ふかく)

一

衝かせてもらう

このサーヴァントがそもそも
『二本の魔槍』の使い手として
名を轟かせていた英霊で
あったならば――

そう　宝具とは――

決して単一とは限らない

第7話／END

第8話

……いかんなぁ

これはいかん

むうう…

な 何(なに)がだよ？

ランサーの奴(やつ)め
決(き)め技(わざ)に訴(うった)えおった
早々(そうそう)に勝負(しょうぶ)を
決(き)める気(き)だ

いや
それって好都合(こうつごう)
なんじゃ……

馬鹿者
何を言っとるか

もう何人か出揃うまで
様子を見たかったのだが
あのままではセイバーが
脱落しかねん

そうなって
からでは遅い

お お 遅いって…

奴らが潰し合うのを
待ってから襲う計画
だったじゃないか！

……あのなぁ坊主
何を勘違いして
おったのか知らんが…

たしかに余は
他のサーヴァントが
ランサーの挑発に
乗って出てこないもの
と期待しておった

当然であろう？

一人ずつ捜し出すよりも
まとめて相手をした方が
手っ取り早いではないか

まとめて……相手？

応とも

異なる時代の
英雄豪傑と矛を交える
機会など滅多にない
一人たりとも逃す手は
あるまい？

現に
セイバーと
ランサー

あの二人に
してからが
ともに胸の熱く
なるような
益荒男どもだ

気に入ったぞ
死なすには惜しい

死なさないで
どーすんのさッ!?

聖杯戦争は
殺し合い
だってば

ギャワウ！

勝利(しょうり)してなお滅(ほろ)ぼさぬ

ふう

制覇(せいは)してなお辱(はずかし)めぬ

それこそが
真(しん)の〝征服(せいふく)〟である

……ッ！

ドン

つくづくすんなり勝たせてはくれんのか

……良いがなその不屈ぶりは

……アイリス フィール 私にも治癒を

治癒は間違いなく効いてるはずよ！

かけたわ！

かけたのにそんな……

セイバー あなたは今の状態で完治しているはずなの！

あれば右手だけで

……

必殺奥義は放てない

(ひっさつおうぎ)

我が「空間の紅蓮殺(クイーンズナルガ)」を
前にして斬り合えたと
悟ったのまでは良かったな

が 銃を捨てたのは
早計だった

そうでなければ
「必滅の黄薔薇」は
防げていたものを

成る程……

ひとたび穿てば
その傷を決して
癒さぬという呪いの槍

もっと早くに
気付くべきだった

魔を断つ赤槍

呪いの黄槍

さらに加えて
乙女惑わす右目の
泣き黒子――

これだけ揃えば
断定は容易い

フィオナ騎士団随一の戦士……
〝輝く貌〟のディルムッド

ケルトの英霊
ディルムッド・オディナ

まさか手合わせの
栄に与るとは
思いませんでした

それがこの
聖杯戦争の妙
であろうな

――だがな
誉れ高いのは
俺の方だ

時空を越えて
『英霊の座』にまで
招かれた者ならば
その黄金の宝剣を
見違えはせぬ

かの名高き騎士王と
鍔競り合って
一矢報いるまでに
到ったとは！

フフン

どうやらこの俺も
捨てたものでは
ないらしい

さて
互いの名も知れたところで
ようやく騎士として尋常なる勝負を挑めるわけだが――
それとも片腕を奪われた後では不満かな？
セイバー

戯れ言を
この程度の手傷に気兼ねされたのではむしろ屈辱だ

セイバーの鎧は
ランサーの『破魔の紅薔薇』の前には
魔力の浪費でしかないけれど
より致命的な『必滅の黄薔薇』を防ぐ
役には立つ
いかなる手段でも
いやせない黄槍の呪いは
きっと槍白体を破壊するか
ランサーを倒さぬかぎり
解除できないのでしょうね……

ただの一刺が高くついた……
が――

必殺の罠のつもりで用意した
『必滅の黄薔薇』の奇襲を
左腕ひとつの代償で凌ぐとは…

覚悟しろセイバー
次こそは獲る

おもしろい!!

それは私に
獲られなかった
時の話だぞ
ランサー

!!

ゴゴゴゴ

……ッ!?

……
東独……

双方武器を収めよ

王の御前である！

我が名は征服王
イスカンダル!!

此度の
聖杯戦争においては
ライダーのクラスを
得て現界した!

ドオン

ゴル

真名(しんめい)を……

名乗(なの)つた？

何(なに)を——

考(かんが)えてやがりますか
この馬(ば)ッ鹿(か)はあああ!!

おおお

うぬらとは
聖杯を求めて相争う
巡り合わせだが……

矛を交えるより先に
まずは問うておく
ことがある

うぬら各々が
聖杯に何を期する
のかは知らぬ

だが今一度考えてみよ

その願望
天地を喰らう大望に
比してもなお
まだ重いもので
あるのかどうか

……貴様…
何が言いたい？

うむ
噛み砕いて言うとだな

ひとつ
我が軍門に降り
聖杯を余に譲る
気はないか？

さすれば余は貴様らを
朋友として遇し
世界を征する快悦を共に
分かち合う所存でおる

……

その提案は
承諾しかねる

先に名乗った
心意気にはまぁ
感服せんでも
ないが……

俺が聖杯を捧げるのは
今生にて誓いを交わした
新たなる君主ただ一人だけ

断じて貴様ではないぞ
ライダー

そもそもそんな戯言を
述べ立てるために
貴様は私とランサーの
勝負を邪魔立てしたと
というのか？

戯れ言が過ぎたな
征服王

戦士として
許し難い侮辱だ！

むう

……

…待遇(たいぐう)は応相談(おうそうだん)だが？

くどい!!

重ねて言うなら私もまた
一人の王として
ブリテン国を預かる身だ

いかな大王といえども
臣下に降るわけにはいかぬ

ほう？
ブリテンの
王とな？

名にしおう騎士王が
こんな小娘だったとは
こりゃ驚いた

その小娘の一太刀を
浴びてみるか？

征服王！

……

ポリ ポリ

こりゃー
交渉決裂(こうしょうけつれつ)かぁ

残念(ざんねん)だなぁ

勿体(もったい)ないなぁ

らいだわわわ……

どくさすんだよぉ

征服とか何とか言いながら結局総スカンじゃないかよぉ

オマエ本気でセイバーとランサーを手下にできると思ってたのか？

ハッハッハ！

いやまぁ『ものは試し』と言うではないか

『ものは試し』で真名バラしたンか!?

HAHAHAHAHA

おろろ～ん

BAKAYARODO...

ポカポカポカポカ

モオオ

……

そうか
よりにもよって
貴様か

あ……う……

何を血迷って
私の聖遺物を
盗み出したのかと
思ってみれば――

よりにもよって
君みずからが
聖杯戦争に参加する
腹だったとはねぇ

ウェイバー・
ベルベット君(くん)

第8話／END

第9話

魔術の開闢以来
魔術回路の譲渡からなる蓄積は
その代を重ねることにより
魔術の禄を高めるに
必要な措置とされてきた

だが果たして
それのみだろうか

魔術は出生からなる一面
のみならず術式に対する
深い理解と効率的な
魔力の運用により
より高度な魔術に到達する
と考えるに至り

完全なる思索の末
この論文
『新世紀に問う魔導の道』
を提唱する

ここに記述する内容こそ
魔術協会に一石を投ずる…

フン

なあっ！

改めて
言うまでもないが
君のこういう妄想癖は
魔導の探求には
不向きだぞ？

ウェイバーくん

も 妄想
ですって!?

若輩の魔術師に
よくあることだ
出自に劣等感を
抱くのは同情するが
血統と魔術には密接な
つながりがある

これは誰しもが
覆せない事実であり
未来においても
覆されることはない

現実は何とも
過酷だなぁ

しかしケイネス先生
私の考えによるならば！

話はこれまでだ
ウェイバー・
ベルベット

自身の血統に卑賤を
感じるとはいえ
妄言を書き連ねることで
時間を浪費することは
やめたまえ

たとえ至高に
至らぬとも
ひとつ術式の研鑽に
力を注いだ方が
魔道の…

独学で修業を重ね
ついに魔術協会の総本部
時計塔に招聘されたとはいえ

そこに蔓延していたのは
才能よりも血統を重んじる
腐敗した風潮だった

自分の才能を軽視され
憤懣やるかたない
日々を送るうち
風聞で耳にした噂

神童
『ロード・エルメロイ』
と呼び持て囃される
ケイネス・エルメロイ・
アーチボルトが

その経歴に最後の仕上げを
施すべく聖杯戦争と呼ばれる
魔術の競い合いに参加する

そしてひとかどの幸運から
管財課の手違いで
自分の手元に届けられた
半ば朽ち果てた一反の布

それがケイネス先生が
用意したサーヴァント
召喚の触媒だと
気付いた瞬間
首席卒業のメダルの
輝きは意識から消えた

肩書きも権威も
なんら意味のない
正真正銘の実力勝負

それこそ
自分の力を
知らしめる
絶好の花舞台

血統の古さばかりを
鼻にかける優等生たちと
そんな連中にしか期待を
示さない講師どもめ

時計塔を飛び出した
僕の決断は間違って
いなかった

何故なら…！

右手に宿った
令呪！

これこそ僕が他の魔術師に
及びもつかない魔力を
発露している証拠に
他ならない

ハヒ
ハヒ
エヒヒ
イヒイヒ
キヒヒヒ…

だがこれだけでは終わらない

僕がこれから召喚し
従えるサーヴァントが
敵をことごとく駆逐し
聖杯を獲得した暁には
時計塔に胸を張って
凱旋する！

ウェイバーちゃん
朝ご飯ですよ

コトコト

その時の連中の顔色を
想像するだけで…

ヒヒヒ

この土地の孤独な老夫婦に
暗示をかけることで
偽の身分と快適な
住居を手に入れ
同時に金銭面の問題も
解決された

我ながら
素晴らしい機転だ

やっぱり僕は天才だぁ

残念だ
実に残念だなあ

可愛い教え子には
幸せになってもらい
たかったんだがね

ウェイバー
君のような凡才は
凡才なりに凡庸で
平和な人生を
手に入れられたはず
だったのにねぇ

致し方ないなぁ
ウェイバー君

君については
私が特別に課外授業を
受け持ってあげよう
ではないか

魔術師同士が殺し合う
という本当の意味――

その恐怖と苦痛とを
余すところなく
教えてあげるよ

光栄に思いたまえ

！

おう魔術師よ

察するに貴様はこの坊主に成り代わって余のマスターとなる腹だったらしいな

だとしたら片腹痛いのぅ

余のマスターたるべき男は余と共に戦場を馳せる勇者でなければならぬ

姿を晒す度胸さえない臆病者なぞ役者不足も甚だしいぞ

……

ガッハッハッハッハ！

おいこら！他にもおるだろうが!?

闇に紛れて覗き見をしておる連中は!!

——どういうことだ？
ライダー

セイバー
それに
ランサーよ
うぬらの真っ向
切っての競い合い
まことに見事であった

情けない！
情けないのう！

あれほどの清澄な
剣戟を響かせては
惹かれて出てきた英霊が
よもや余ひとりという
ことはあるまいて

冬木に集った英雄豪傑どもよ
このセイバーとランサーが
見せつけた気概に
何も感じるところが
ないと抜かすか？

誇るべき真名を
持ち合わせておきながら
コソコソと覗き見に
徹するというのなら
腰抜けだわな

英霊が聞いて
呆れるわなぁ
んん!?

ｺﾞｺﾞｺﾞ

聖杯に
招かれし
英霊ども！

今(いま)!!

ここに集(つど)うがいい!!

なおも顔見せを
怖じるような臆病者は
征服王イスカンダルの
侮蔑を免れぬ
ものと知れ！

……あんな馬鹿に
世界はいちど征服
されかかったのか？

……

……これは
拙いな

拙いですね

あいつは……

……アーチャーが
現れました…

……

我を差し置いて
〝王〟を称する不埒者が
一夜のうちに二匹も
湧くとはな

ちょっと
予想外…

難癖つけられた
ところでなぁ……

イスカンダルたる余は
世に知れ渡る征服王に
他ならぬのだが

たわけ

真の王たる英雄は
天上天下に我ただ独り

あとは有象無象の
雑種にすぎん

そこまで言うんなら
まずは名乗りを
上げたらどうだ？

貴様も王たる者ならば
まさかおのれの威名を
憚りはすまい？

問いを
投げるか？

雑種風情が
王たるこの我に
向けて？

我が拝謁の栄に浴してなお
この面貌を見知らぬ
と申すなら
そんな蒙昧は生かしておく
価値すらない

ハァ……ハァ……

はは

間違いない！

はは

はは

はは

はは

アイツは昨夜遠坂邸に侵入したアサシンを倒した黄金の英霊遠坂時臣のサーヴァントだ！

遠坂……時臣……！

殺せ……

殺すんだ
バーサーカー

あのアーチャーを
殺し潰せッ!!

まさかまた
新手のサーヴァントが…!?

……なぁ征服王
アイツには誘いを
かけんのか？

誘おうにもなぁ
ありゃあ のっけから
交渉の余地
なさそうだわなぁ

で 坊主よ

ありゃどう見てもバーサーカーだがサーヴァントとしちゃどの程度のモンなんだ？

…判らない

まるっきり判らない

何だぁ？ 貴様とてマスターの端くれであろうが

得手だの不得手だの色々と〝観える〟ものなんだろ ええ？

見えないんだよ！

あの黒いヤツ 間違いなくサーヴァントなのに… ステータスも全然読めない！

幻覚…？

バーサーカーの姿がはっきりと捉えられない！

ひとたび英霊と契約し
マスターとなった者ならば
他のサーヴァントの
ステータスを〝読み取る〟
ための透視力を授けられる

アイリのような
代行マスターでは
叶わぬ相談だが！

しかし奴の幻覚は――
マスターの透視力にまで
影響を及ぼしている！

あの英霊は自らの素性を
幻惑させるような
特殊能力なり呪いなりを
帯びているのか

少なくともバーサーカーの
クラス別スキルでは有り得ない

どうやら
アレもまた厄介な
敵みたいね……

それだけではない

四人を相手に
睨み合いとなっては
もう迂闊には
動けません

バトルロイヤルの常道では
最も劣勢な者を総掛かりで
潰すのが一番堅実な戦術

弱みを見せて
四対一の絶望的な戦いを
強いられる羽目になれば
いかにセイバーといえども
勝ち目はない

この場を生き延びるには
すべての敵の動向を正確に
見極めるしかない

それはどの英霊にとっても同じ

誇りを懸けて
斬り結んだ以上は
何を差し置いても
ランサーとの決闘が最優先

が……それはあくまで
一対一の尋常な勝負を
後顧の憂いなく
行える場合の話

ここまで邪魔が
入ったのでは……

ライダーは今のところ
他の英霊たちの顔触れを
見定めておきたいだけだろう

だが臆することもなく
罷り出てきた以上は
誰の挑戦も受けて立つだけの
覚悟はあると見ていい

アーチャーは
『征服王』やらの名乗りが
気に入らないのか
挑発の主でもある
ライダーについては
最優先の標的とするだろう

問題は残る一人だ

どう動く…？

まともな思慮(しりょ)ある
マスターであればこんな
戦略(せんりゃく)もへったくれもない
混沌(こんとん)の直中(ただなか)に敢(あ)えて
サーヴァントを放(はな)とう
とは思(おも)うまい

狂犬(きょうけん)めが……

誰(だれ)の許(ゆる)しを得(え)て
我(オレ)を見(み)ておる？

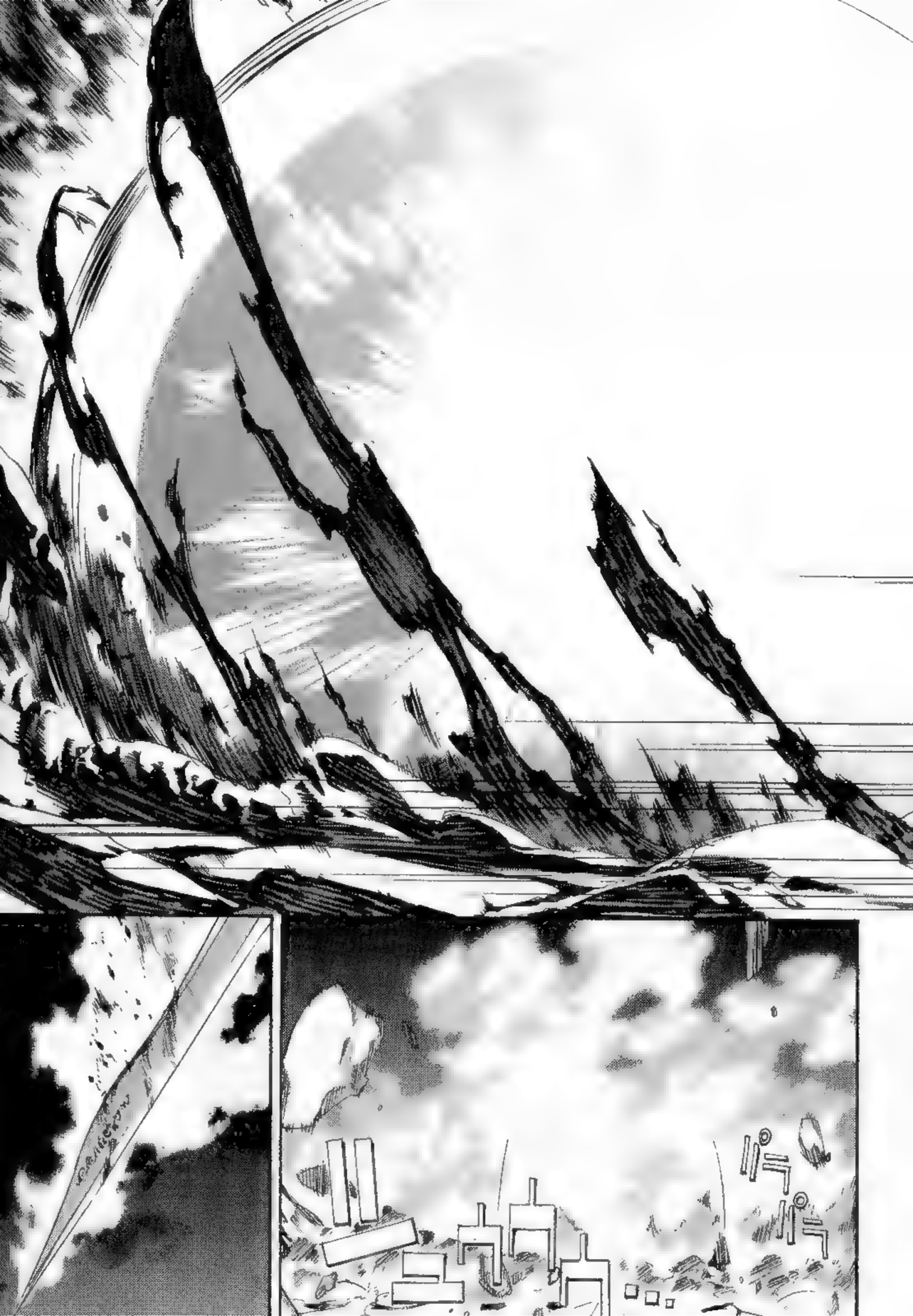
キョロ
え？

なっ…！

ドン

せめて散(ち)りざまで
我(オレ)を興(きょう)じさせよ
雑魚(ざっしゅ)

……ッ！



第９話／ＥＮＤ

第10話

一瞬のうちに先に
飛来した剣を
掴み取って槍を
打ち払った

つ
掴み取って!?

狂化して理性を
無くしてるにしては
えらく芸達者な
奴よのぅ

一体何が…

……どう
なったんだ？

カル

——その汚らわしい手で我が宝物に触れるとは……

そんな……馬鹿な……

三つ四つと宝具相当の超兵器を秘蔵する英霊もいるけど多くてもその程度

アーチャーが出す武器はどう見ても宝具なのにあの数は一体——!?

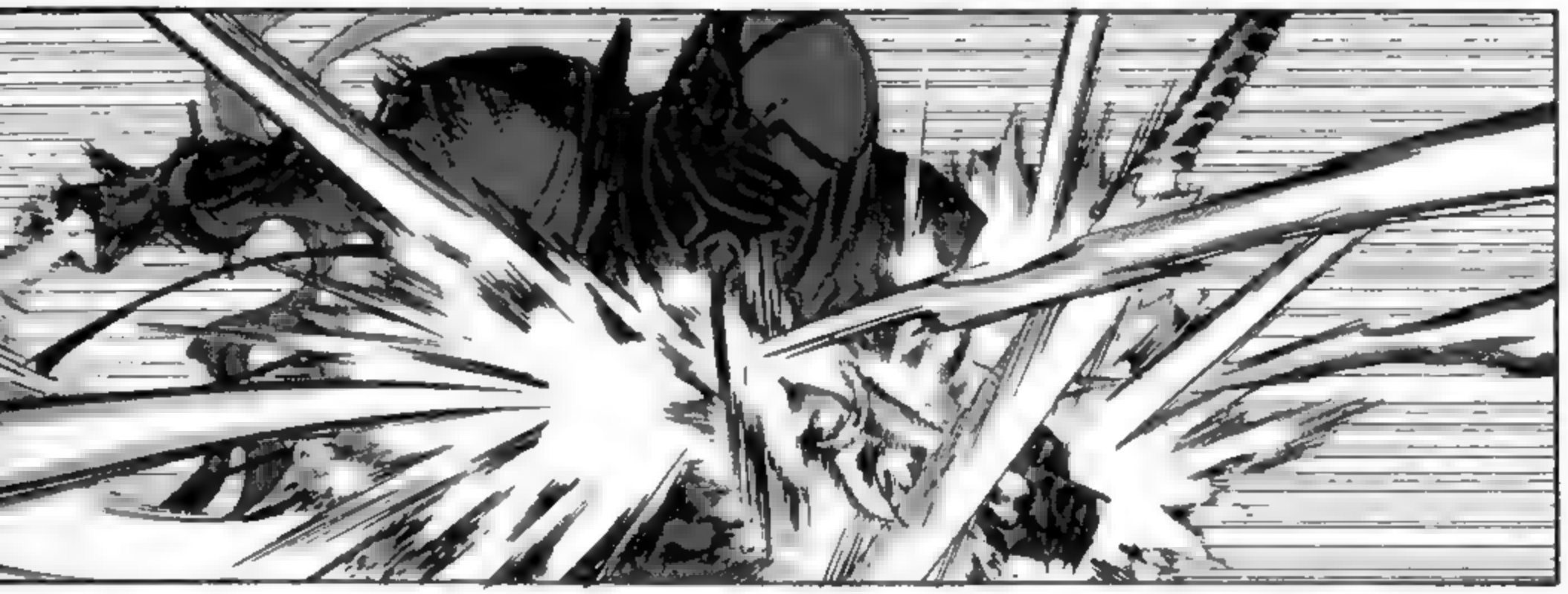
そこまで
死(し)に急(いそ)ぐか
狗(いぬ)ッ！

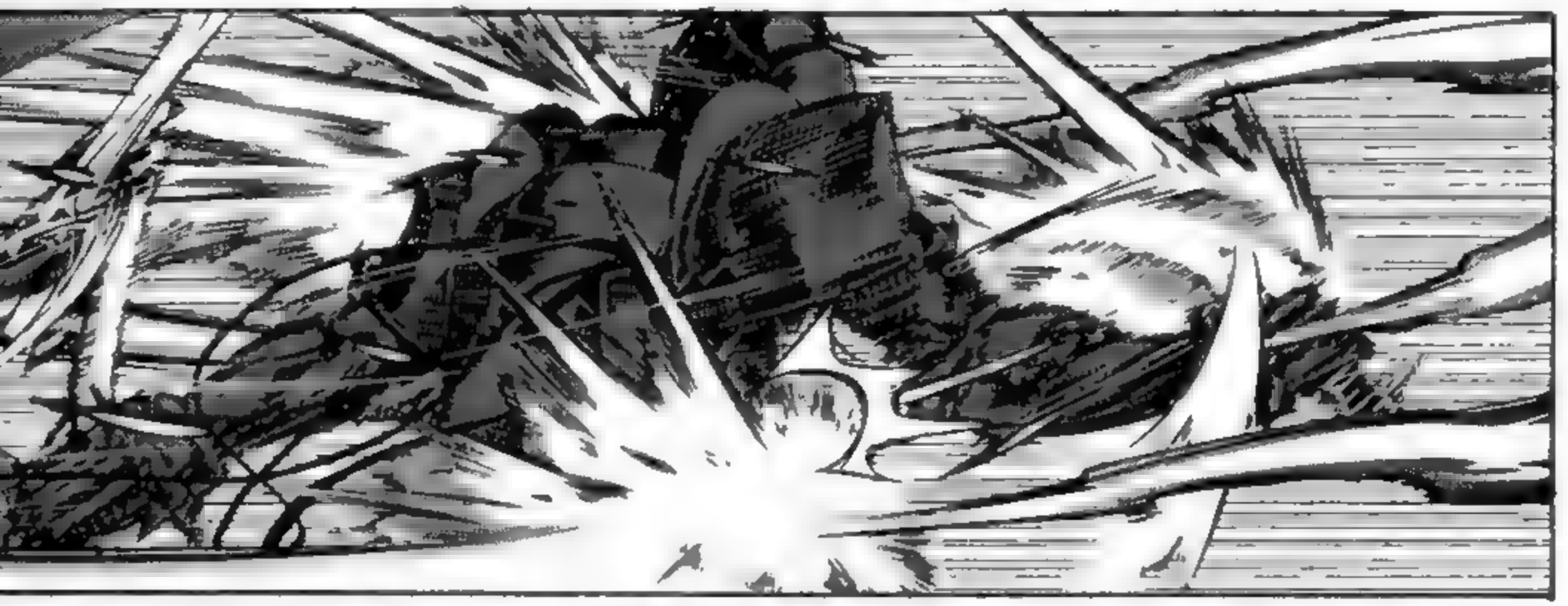
ゴ

その小癪(こしゃく)な
手癖(てくせ)の悪(わる)さでもって
どこまで凌(しの)ぎきれるか——

さぁ
見(み)せてみよ！

ヒュルルルル…
ボン





どうやらあの金色は
宝具の数が自慢
らしいが――

だとすると
あの黒いヤツとの
相性は最悪だな

黒いのは武器を拾えば
拾うだけ強くなる

金色もああ節操なく
投げまくっていては
深みに嵌る
一方だろうに

融通の利かぬ奴よのう

ぐ……が

ぐぁ……ッ!!

ぐぐぐぐッ……!

があああああッ……

噛まれる

疑似魔力回路である
約一匹が俺の肉を蝕ん
強力な

ゴゴゴゴ

痴れ者が……

天に仰ぎ見るべき
この我を同じ大地に
立たせるかッ

その不敬(ふけい)は
万死(ばんし)に値(あたい)する

ア…

そこらな雑種(ざっしゅ)よ
もはや肉片(にくへんひと)一つも
残(のこ)さぬぞ！

……ギルガメッシュは
本気です

さらに『王の財宝（ゲート・オブ・バビロン）』を
解き放つ気でいます

……

状況の把握に
不自由はない

アサシンを操る綺礼には
知覚共有の魔術を伝授し
連携は期待した通りの
成果を挙げている
態勢は万全のはずだった

唯一計算外だった要素といえば
最強を期して呼び出した英霊が
よりにもよってアーチャーの
クラスで現界を果たしたことか

導師（マスター）よ　ご決断（けっだん）を

……

貴様ごときの諫言で王たる我の怒りを鎮めろと？

……？

大きく出たな時臣……

！

……命拾いをしたな狂犬

雑種(ざっしゅ)ども

次(つぎ)までに有象無象(うぞうむぞう)を間引(まび)いておけ

我(オレ)と見(まみ)えるのは真(しん)の英雄(えいゆう)のみで良(い)い

……

フムン どうやら
アレのマスターは
アーチャー自身(しいん)ほど
剛毅(ごうき)な質(たち)では
なかったようだな

……はぁ…

…はっ……

アーチャーが…
いない…？

……ふふ

ははは……

やった

あの高慢な魔術師に
俺のような常人をつねに
見下し続けてきた連中の顔に
ついに泥を塗ってやった

俺は負け犬なんかじゃない
もう誰にも呼ばせはしない
もう誰にも呼ばせはしない

はは…

ふはは

俺は貴様らと戦える
貴様らを恐怖させ
静かしてやれる……

今夜のところは
ここまでだ

ズ

アーチャーが撤退した今
さらに苦痛を押して
戦い続ける理由はない

ズル

他のサーヴァントたちが
勝手に殺し合うに
任せておけばいい

ゴ

ゴ

ゴ

刻印虫(こくいんちゅう)がまた動(うご)き出(だ)し…!

かっ…

やめろ…
…戻(もど)れ!

戻(もど)ってこい
バーサーカー!

バーサーカァァッ！

やめろォ!!

カハァ…

ビリビリ

ぐっ……！

これは……アーチャーが立っていた街灯のポール!?

そんな!!

『風王結界(インビジブルエア)』に隠(かく)されたセイバーの剣(けん)はまさしく宝剣(ほうけん)の中(なか)の宝剣(ほうけん)

たかが路傍(ろぼう)で拾(ひろ)った鉄塊(てっかい)などで鍔迫(つばぜ)り合(あ)うなんて……

有(あ)り得(え)ない!

ぎぃ…

貴様(きさま)は……まさか!?

……そういうことか

あの黒(くろ)いのが掴(つか)んだものは何(なん)でありヤツの宝具になるわけか

くっ！

セイバー……ッ！

ランサーの『必滅の黄薔薇』に負わされた傷が響いているんだわ

……舞弥 そっちからバーサーカーのマスターは視認できるか？

いいえ 見当たりません

僕と舞弥のポジションは互いに死角をフォローしている

ということは相手もまたサーヴァントに直接指示を出せるような位置におらず隠身を優先しているのか

どうやらランサーのマスターよりも慎重な性格と見える なまじ優秀な魔術師よりもこういう増長のない相手の方がむしろ難敵だ……

まずいな……

状況はセイバーとバーサーカーの一騎打ちではないその横には無傷のランサーとライダーが控えている

あからさまな劣勢に立たされるのは最悪の展開だこの場でバーサーカーに加勢すればたやすくセイバーを脱落させられる……

……くそっ

傍観するライダーへの
牽制も含めて
互角の拮抗に持ち込んで
おかねばならないのに

今この状況に
つけ込まれたら
凌ぎきる余力は
ない…！

獣の如き荒々しさ
しかしその技の冴えと
正確さは達人の域にある

魔力で強化されているとはいえ
歪みねじくれた鉄柱の残骸を
得物として使いこなす
狂化してなおこの手練
尋常な腕前ではない！

貴様は……一体!?

悪ぢえはその程度にしておいてもらおうかバーキーカー

そこのセイバーには
この俺と先約があってな

ガラ…
ガラ…

……これ以上つまらん
茶々を入れるつもりなら
俺とて黙ってはおらんぞ？

なるほど
打ち合った互いの魔力を
打ち消す彼の赤槍であれば
バーサーカーの黒い魔力に
侵蝕された疑似宝具も
ただの鉄塊に過ぎない

ランサー……

フムン

何をしているランサー？

セイバーを倒すなら今こそが好機であろう

お望みならそこな狂犬めも先に仕留めて御覧に入れましょう

セイバーは！必ずやこのディルムッド・オディナが誇りに懸けて討ち果たします！

故にどうか我が主よ！この私とセイバーとの決着だけは尋常に…

ならぬ

ランサー
バーサーカーを掩護して
セイバーを殺せ

令呪をもって命ずる

第10話　END

Fate/ゼロ

フェイト／ゼロ

Staff/ 錦山まる、春乃えり

Kadokawa Comics A

全ての「Fate」の原点

Fate
stay night
フェイト/ステイナイト

原作:TYPE-MOON
漫画:西脇だっと
⑯巻好評発売中

①～⑮巻好評発売中

第3巻

第2巻

第1巻

第6巻

第5巻

第4巻

第9巻

第8巻

第7巻

第12巻

第11巻

第10巻

第15巻

第14巻

第13巻

⑰巻12月26日発売予定

角川書店
©TYPE-MOON
発行　角川書店
発売　角川グループパブリッシング

※お近くの書店に本がない場合は、角川グループ受注センター読者係
(tel：049-259-1100)までお問い合わせください。
※インターネットでもご購入いただけます。詳しくは小社ホームページをご覧ください。→http://www.kadokawa.co.jp/
※この情報は2011年10月現在のものです。

Kadokawa Comics A

角川コミックス・エース

Fate/Zero ②

漫画

真じろう

原作：虚淵玄(ニトロプラス)／TYPE-MOON

2011年10月4日初版発行

発行者

新名　新

発行　株式会社**角川書店**

〒102-8078 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8541(編集)

発売　株式会社**角川グループパブリッシング**

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8521(営業)

http://www.kadokawa.co.jp

装幀・デザイン

和田幸男

印刷　**大日本印刷**株式会社

製本　**大日本印刷**株式会社

初出／『ヤングエース』'11年6月号～10月号

本書の無断複写・複製・転載を禁じます。落丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ受注センター読者係宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。
この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

2011 KADOKAWA SHOTEN, Printed in Japan

©Shinjiro 2011　©Nitroplus/TYPE-MOON

ISBN978-4-04-715787-3 C0979